

「上咽頭えらいぞ」のおはなし

耳鼻咽喉頭はつながっています。鼻の奥は上咽頭と言います。ここにはアデノイドというリンパ腺が中学生頃まであります。その横には左右に中耳まで耳管という管があります。上咽頭は、インフルエンザやコロナの検査でこするところです。鼻で呼吸をする時、ウイルスや細菌は、最初に上咽頭に引っ付きやすいのです。それが、耳管へ侵入すると中耳炎をおこします。

上咽頭は、鼻からファイバーを入れて、初めて見えます。アデノイドがなくなってからも傷つきやすく、鼻水が詰まり血が出たり痛くなったりします。刺激されるとくしゃみや咳が出ます。私は密かにここからの咳が原因不明の咳の何%かだとにらんでいます。でもくしゃみと咳は発生の経路が違うという先生もいます。

上咽頭は、ベルトコンベヤーの働きをする線毛細胞で覆われています。この細胞が弱ると鼻汁が残り、不快感やしゃべりにくさが起きます。お肌以上に鼻の粘膜は傷つきやすいです。少しの鼻水と鼻詰まりと鼻毛で湿ると、この細胞が元気になります。鼻水は糖やたんぱく質の働きで粘膜表面に引っついて粘膜を保護します。鼻水の中にはIgA（免疫グロブリンA）という免疫物質があり感染を防御しています。

ひそかな鼻の奥のお話でした。

令和5年9月

加藤 伸一